

## 膠原病除外のための抗DFS-70抗体の同定方法の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 林, 伸英, 今西, 麻樹子, 生戸, 健一, 三枝, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1007">https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1007</a>

## 膠原病除外のための抗 DFS-70 抗体の同定方法の研究

林 伸英<sup>1)</sup>

今西麻樹子<sup>1)</sup> 生戸健一<sup>2)</sup> 三枝 淳<sup>2)</sup>

【目的】抗核抗体検査は自己免疫疾患の診断や病態の把握において重要な検査で、現在 HEp-2 細胞を核材とした間接蛍光抗体法 (IF 法) が広く使用されている。2014 年に IF 法による抗核抗体検査の染色型分類国際的コンセンサス (ICAP) が提示され、通常分類の Speckled 型判定において Dense fine speckled 型 (DFS 型) を個別に判定することが示された。本研究では、DFS 型の確認として簡便に効率よく抗 DFS-70 抗体を同定できる検査法を評価する。

【方法】健常人 252 を対象とし、ELISA 法をゴールドスタンダードとして、従来の IF 法での DFS 型判定 (IFDFS 法)、DFS-70 抗原をノックアウトした HEp-2 細胞による IF 法 (KO 法) を比較検討した。

【結果】①健常人での ELISA 法の抗 DFS-70 抗体陽性率は 16.7% (42/252) であった。②検出率は IFDFS 法、KO 法、それぞれ 13.9% (35/252)、15.1% (38/252) であり、ELISA 法との一致率は 97.2%、98.4% であった。③2 者いずれかの不一致例 8 例中 5 例は IF 法低抗体価 (陰性・40 倍・80 倍)、4 例は染色型混在、3 例は疾患特異的抗核抗体が陽性であった。

【考察】抗 DFS-70 抗体を捕捉する点において、KO 法は IFDFS 法と比較して優れていたが、他の抗核抗体共存例や染色型混在例では見落としが見られることから、注意が必要である。

---

1) 保健科学部医療検査学科 2) 神戸大学医学部附属病院